

## 2022 年度:こども園自己評価の報告書

## 本町こども園

評価項目	取り組み状況
<p><b>教育・保育方針</b> <b>教育及び保育の目標</b> <b>全体計画・指導計画</b> <b>こども園として特に配慮すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育課程</li> <li>・教育環境の整備</li> <li>・研究の取り組み 等</li> </ul>	<p>「自分らしさを大切に仲間同士で認め合える関係作り」を研究テーマに“自然環境の中での豊かな身体づくり”をサブテーマとして設定している。取り組みをすすめるにあたり、園環境・研究テーマ・つぶやきの3グループを作り職員が主体的に学びを深め、指導計画作成ができるよう工夫した。園内研究を実施し、乳幼児期に育みたい力や保護者支援について具体的な活動や配慮を学ぶ機会になった。園内公開保育を行い、振り返りの中で職員同士が意見を出し合い、自分たちの教育保育を見つめなおすことが、課題を検討していく機会となった。</p>
<p><b>健康支援</b></p>	<p>園児を対象とした保健指導を学校薬剤師とともに継続していき、健康安全指導に関する保育内容の充実をはかった。保健年間計画に基づき、毎月の身長、体重を計測、その機会を利用して、自分自身の健康、身体への興味、関心を高められるようにしている。園児1人1人の健康状態を把握し、こまやかに家庭と連絡を取り連携していった。毎月保健だよりを発行し、感染症その他について発信している。感染症の流行が見られるときは園内の環境整備をし、保護者の協力のもと感染拡大予防に努めた。職員も毎日検温をし健康管理に努めた。</p>
<p><b>安全管理</b></p>	<p>毎月の安全点検を職員が責任をもって実施。危険があったり、修繕が必要なところは施設整備課等と連携し改善していき安全管理に努めた。毎月の避難訓練では、通報、消火訓練を実施し、全職員が非常時の対応ができるように努めた。9月1日のこども園防災の日には、非常食を防災献立として提供し非常食を食べることも経験している。</p>
<p><b>食育の推進</b></p>	<p>クラスの現状から育てる野菜を決め、土づくりの段階から子どもたちと一緒にやっている。育てた野菜はクラスで調理をして食べる経験をしたり、日々の遊びや行事に取り入れている。毎日の給食を掲示し、同時にフェルトで作った食材を置き、親子で見たり、触ったりしながら何が入っているのか、食べてみてどうだったかなど会話を楽しんだり、食への興味・関心をもつことにつなげている。</p>
<p><b>子育て支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園している子どもの保護者</li> <li>・地域の子育て家庭</li> <li>・地域との連携 等</li> </ul>	<p>今年度は、保育参観を週で行い、5月には、参加の保護者にクラスの保育についてのねらいなどの話をして、2月はつくってあそぼうの取り組みの中で参観をおこなった。クラス懇談会も開催するなど行事を通しての保護者とのつながりを作っていた。地域の子育て家庭との交流の機会をもつことがむずかしかったが、地域担当保育教諭がかかわる中で相談等があれば一緒に話を聞いていった。園主体の校区連絡会では3校区を担当。それぞれの所属の方々と情報交換をするとともに子どもを地域で守り育てるためのつながりの大切さを確認し合った。</p>
<p><b>教育・保育内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護・健康・人間関係</li> <li>・環境・言葉・表現</li> </ul>	<p>「認定こども園全体計画」をもとにクラスの子どもの現状に合わせて教育保育を考えている。違いを認め合い、ともに育つ視点を大切にクラス集団づくりをしている。乳幼児期において育みたい資質として“心身ともに豊かな身体づくり”をテーマに保育内容を検討している。生活の中で健康・人間関係・言葉・表現などの領域の活動が展開され見えない力を育む機会となった。子どもの育ちの評価反省を会議や公開保育の振り返りでを行い、課題等を確認している。</p>

<p style="text-align: center;"><b>職員の資質の向上</b></p>	<p>人権研修では職員それぞれの人権意識をみがき、人権に関する問題を多面的にとらえて学ぶ機会とした。園内の公開保育、会議、講師を招聘してアドバイザー研修を行うなど職員が学び合う機会を作り、専門性の向上に努めた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>幼保こ小中の連携</b></p>	<p>幼保こ小連絡協議会において、就学に向けてこどもの情報交換をしたり、5歳児が学校を訪問する機会を設けていった。第13中学校区連絡協議会では、取り組みのひとつである、公園美化活動の中で5歳児が隣接の公園清掃をおこなった。ボランティア活動をすることで、言葉の意味や誰かの役にたつ喜びを体験することができた。切れ目のない支援を実行するために教育センター夜学校との連携を大事にし子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう配慮や支援の在り方を伝え情報共有に努めた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>関係者評価の取り組み</b></p>	<p>評議員会は園周辺の各地域、関係者より5名を選出し、年間3回の評議員会を予定している。公開保育等でこどもの様子を見てもらい、園の教育保育について数名ずつの職員参加のもと意見交換している。評議員の方それぞれの経験や地域での活動の中から多面的な視野での意見をいただき、気づきや学びにつながった。</p>
<p style="text-align: center;"><b>その他</b></p>	<p>教育保育実習生、看護実習生、園見学等で子どもたちは様々な人と出会いその中で人と豊かにかかわる経験をする機会になった。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

<p style="text-align: center;"><b>課 題</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>具体的な取り組み方法</b></p>
<p><b>保護者とのかかわり</b></p>	<p>困ったことや気になることがあったときに相談できる環境づくりに努めているという項目で割合がやや低い傾向が見られた。相談がしにくいのか、相談すること自体がだめと思っているのかわからないが、いつでも相談にのよというスタンスで対応するとともに職員の資質向上にも努め、安心して相談できる雰囲気づくり、場作りに取り組んでいく。</p>
<p><b>職員の資質向上</b></p>	<p>園内研修の取り組みにあたり、研修が職員の主体的な学びのひとつとなり、それを教育保育ですぐに活用できるような内容や職員自身が前向きな気持ちになっていけるような内容、個々のスキルアップにつながるような内容を選び、資質向上に努める。</p>

令和5年（2023年）3月31日  
豊中市立本町こども園  
園長名 芝田千恵美